

日本化粧品学会

第39回 教育セミナー プログラム

化粧品・医薬部外品の安全性 ～よりよい製品開発のために～

ご挨拶

今年も教育セミナーの開催日が近づいてまいりました。学術委員長を拝命して二年目になる東京逓信病院皮膚科の江藤隆史でございます。昨年は私自身、深く興味を抱いている「皮膚のバリア機能」に焦点を定め、「ドライスキン」というテーマでセミナーを企画し、大変勉強になったとのアンケート結果をいただきました。今年のテーマも皆様からのご意見・ご要望を参考にしながら、1月の学術委員会で大いに検討させていただきました。いろいろな案が出ましたが、この数年、石鹸や美白化粧品において健康被害が相次いで問題になったことから、「化粧品・医薬部外品の安全性」をテーマにセミナーを組んでみよう、ということになりました。

7名の先生方を演者として選ばせていただきました。まず、基調となるご講演として「化粧品・医薬部外品の安全性とその評価」というタイトルで、この領域のエキスパートでいらっしゃる安全性コンサルタントの増田光輝先生にお話をいただきます。2番手は、日本皮膚科学会理事会において、医薬品や化粧品・医薬部外品の安全性に関する問題を担当され、ご活躍中の藤田保健衛生大学皮膚科教授の松永佳世子先生に「皮膚科医から見た化粧品安全性の現状と安全性確保のための提案」と題して、最近話題になった諸問題を取り上げながらお話しいただきます。

お昼休みをはさみ、午後からは過去の歴史を振り返りながら「化粧品による有害事象と化粧品メーカー対応の歴史—黒皮症から白斑まで—」という演題で、日本化粧品工業連合会の高野勝弘先生にお話しいただきます。若手の皆様は、「リアル黒皮症」という皮膚病名をご存知でしょうか？過去の歴史も勉強していただきます。4番手は、化粧品を皮膚に適用する際の基礎科学的知識として「皮膚移行・経皮吸収の重要性」というタイトルで昭和薬科大学准教授の藤井まき子先生にお話しいただきます。そして、安全性を確認するための重要な手法である「動物実験代替法の現状と展望」について、花王研究所の宮澤正明先生に解説いただきます。

休憩をはさみ、6番手としてPMDAの徳永裕司先生に「化粧品・医薬部外品の現状と展望」と題して、安全性などを監視する側からの貴重なアドバイスをいただく予定です。そしてラストは、もし「問題が起こってしまったら」ということを想定し、皮膚科医でもあり弁護士でもある田邊昇先生から「香化粧品をめぐる訴訟について」という演題で、実際の訴訟になった事例を取り上げながら、その適切な対処法や予防法などについて解説いただくことで、セミナーのフルコースメニューをめで頂きます。10時から17時半まであっという間の1日になることでしょう。どうぞお楽しみに。会場でお待ちしております。

学術委員長 江藤隆史

開催日：2014年10月17日（金）

会場：ヤクルトホール

*アクセスは最終ページの地図をご参照ください

〒105-8660 東京都港区東新橋 1-1-19 (TEL.03-3574-7255)

開場：9：30 開演：10：00

参加費：会員 15,000円（予約 13,000円）

非会員 20,000円（予約 18,000円）

学生 2,000円（当日のみ・要旨集代含・要学生証提示）

* ご所属が賛助会員の場合、個人会員と同じく15,000円（事前予約13,000円）でご参加頂けます。

* 参加費には要旨集代が含まれています。

日本化粧品学会 第39回教育セミナー プログラム

10:00~10:05	開会挨拶	委員長 江藤 隆史 (東京通信病院)
-------------	------	--------------------

10:05~10:55		座長 菅沼 薫 (エフシージー総研)
	1. 化粧品・医薬部外品の安全性とその評価	増田 光輝 (安全性コンサルタント)

10:55~11:45		座長 増永 卓司 (コーセー)
	2. 皮膚科医から見た化粧品安全性の現状と安全性確保のための提案	松永 佳世子 (藤田保健衛生大学)

11:45~13:00	— 昼休み (参加費に弁当代は含まれません) —	
-------------	--------------------------	--

13:00~13:50		座長 吉田 雅紀 (クラシエ)
	3. 化粧品による有害事象と化粧品メーカー対応の歴史~黒皮症から白斑まで~	高野 勝弘 (日本化粧品工業連合会)

13:50~14:40		座長 堤 康央 (大阪大)
	4. 化粧品開発における皮膚移行・経皮吸収の重要性	藤井 まき子 (昭和薬科大学)

14:40~15:30		座長 翠川 辰行 (ライオン)
	5. 安全性における動物実験代替法の現状と展望	宮澤 正明 (花王)

15:30~15:45	— 休憩 —	
-------------	--------	--

15:45~16:35		座長 松本 克夫 (ポーラ)
	6. 化粧品・医薬部外品の現状と展望	徳永 裕司 (医薬品医療機器総合機構)

16:35~17:25		座長 林 伸和 (虎の門病院)
	7. 香化粧品を巡る訴訟について	田邊 昇 (中村・平井・田邊法律事務所/ねもと皮膚科)

17:25~17:30	閉会挨拶	副委員長 松本 克夫 (ポーラ)
-------------	------	------------------

化粧品・医薬部外品の安全性とその評価

[増田 光輝先生]

化粧品・医薬部外品の安全性はどのように考えたらよいのか？ その評価はどのようにして行うのか？ 安全性評価は“ガイドラインにしたがって”と考えがちですが、まずガイドラインありきではありません。評価する物質の性質、使われ方などの特徴を把握して、その物質を評価するのに適切な評価項目、試験方法、試験条件を設定しなければ、的確な評価はできません。つまり、その物質に合った評価方法を設定することが必要です。

皮膚科医から見た化粧品安全性の現状と安全性確保のための提案

[松永 佳世子先生]

2011年に加水分解コムギによる経皮感作食物アレルギー、2013年に美白剤誘発性脱色素斑という化粧品による健康被害が問題化した。医師が市販後の製品による皮膚等への健康被害を早期に把握し、医療者、企業、行政に情報提供し、情報を共有活用する産学官の情報ネットワーク「化粧品等皮膚安全性症例情報ネット」を構築始動した。今回皮膚科医から見た化粧品の安全性の現状と安全性確保のための提案を行いたい。

化粧品による有害事象と化粧品メーカー対応の歴史～黒皮症から白斑まで～

[高野 勝弘先生]

ここ数年のうちに、薬用石けんによる全身性のアレルギーや薬用化粧品による白斑の症例が多発し、産学官において原因究明や再発防止に向けた取り組みがなされました。これらをはじめ、これまでに化粧品や薬用化粧品等の医薬部外品が原因で起きた症例と、これらに対する厚生労働省及び日本化粧品工業連合会の対応について紹介します。安全性の分野に携わる方に限らず、化粧品に携わる方にとりまして、知っておいていただきたい内容と考えています。

化粧品開発における皮膚移行・経皮吸収の重要性

[藤井 まき子先生]

「化粧品は角層まで」という神話に縛られていませんか？ 現実には多くの物質が角層のみでなく、生きた表皮に移行しています。また、同じ物質を同濃度、同用量適用しても、皮膚中の挙動は同じとは限りません。これまで、全身毒性の予測のため、経皮吸収は考慮されてきましたが、ターゲットである皮膚中の薬物濃度には配慮されていないところがありました。安全性・有効性を考えるうえで重要な皮膚内薬物動態について基礎から紹介いたします。

安全性における動物実験代替法の現状と展望

[宮澤 正明先生]

動物実験を取り巻く環境、法規制が国際的に強化されている一方で、動物実験の3Rs(Reduction:動物実験の削減、Refinement:実験動物の苦痛の軽減、Replacement:動物実験の置換)の観点から、動物実験代替法の開発、活用に向けた取り組みが世界中で行われています。本講演では、化粧品原料、製品の安全性評価の中でも重要な毒性項目であり、近年、代替法開発が大きく進展した、皮膚感作性及び眼・皮膚刺激性試験代替法の状況について紹介します。

化粧品・医薬部外品の現状と展望

[徳永 裕司先生]

近年、薬用化粧品として上市された製品で重篤な副作用被害の報告が小麦加水分解コムギ末を含む茶のしずく石鹸の使用者に食物依存性運動誘発性アレルギー等の全身性のアレルギーの発症あるいはロドデノールを配合した薬用化粧品による白斑の被害発生により、薬用化粧品の特筆すべき被害事例があった。ヒトに対する作用が緩和で安全な薬用化粧品を開発するため考えを有効性・安全性及び品質・試験方法の面から紹介したい。

香化粧を巡る訴訟について

[田邊 昇先生]

化粧品などでの健康被害にまつわる訴訟問題と言えば、リール黒皮症など皮膚の障害が通常で、被害感情は大きいものの個々の損害賠償額は大きくないものが多かった。しかし、近時の加水小麦によるアナフィラキシー問題など全身・生命被害に関係する事件も起こっており、PL法のもとで結果責任を問われる現状では開発の法的リスクは格段に高い。皮膚科弁護士として、化粧品関係訴訟だけでなく裁判所のアレルギーのとらえ方やPL法の濫用など、司法リスクを実感してもらおう講演を予定している。

参加申込方法

日本化粧品学会 第39回教育セミナー

参加申込事前予約締切：2014年9月11日（木）

学会ホームページ(<http://www.jcss.jp/>)にて

7月7日（月）よりWeb受付開始

- * 9月12日（金）以降は当日受付でお申込みください。
- * 予約申込で入金が確認された方には参加証及び要旨集を10月上旬に送付する予定です。
- * 一旦払い込まれた予約参加費は払い戻しできませんのでご注意ください。

連絡先：

日本化粧品学会 教育セミナー事務局
〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5
アカデミーセンター

TEL. 03-5389-6496

FAX. 03-5227-8632

E-mail. jcs-semi@bunken.co.jp

■ ヤクルトホールへのアクセスマップ



- JR 新橋駅「銀座口」より徒歩3分
- 都営浅草線 新橋駅「汐留1番出口」より徒歩1分
- 新交通ゆりかもめ 新橋駅 徒歩3分
- 東京メトロ銀座線 新橋駅「2番出口」より徒歩2分
- 都営大江戸線 汐留駅 徒歩5分